

安曇野市上下水道事業経営審議会 会議概要

- |   |           |   |
|---|-----------|---|
| 1 | 会議名       | 令和7年度 第2回 安曇野市上下水道事業経営審議会   |
| 2 | 日時        | 令和7年11月11日(火) 午後2時から午後3時10分まで   |
| 3 | 会場        | 安曇野市役所本庁舎 301会議室  |
| 4 | 出席者       | 保尊委員、二木委員、猿田委員、石曾根委員、矢口委員、齋藤委員、<br>加々美委員、阿部委員、田中委員  |
| 5 | 市側出席者     | 丸山上下水道部長、藤森経営管理課長、西山庶務担当係長、小松庶務担当係長、<br>重野上水道課長、本田維持係長、宮澤工務係長、豊田管理係長、<br>小川下水道課長、中田課長補佐兼下水道担当係長、曾山下水道担当係長、<br>木村下水道担当係長 |
| 6 | 公開・非公開の別  | 公開  |
| 7 | 傍聴人       | 0人 記者 0人  |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 令和7年11月25日  |

協議事項等

○会議の概要

- 1 開会
- 2 上下水道部長挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 議事
  - (1) 令和6年度安曇野市水道事業会計決算について
  - (2) 令和6年度安曇野市下水道事業会計決算について
  - (3) 令和6年度安曇野市水道ビジョン事業評価について
  - (4) 令和6年度安曇野市下水道事業経営戦略事業評価について
- 5 その他
- 6 閉会

○議事の概要

- 4 議事
  - (1) 令和6年度安曇野市水道事業会計決算について
  - (2) 令和6年度安曇野市下水道事業会計決算について  
(資料に沿って事務局から予算概要により説明)

< 質疑 >

委員： 有収率が75.1パーセントと低い。取り組み状況等説明いただければ。  
また、電気料金が上がっており、それが利用料金等に跳ね返る心配等は  
まだ当面ないのか。

事務局： 有収率については令和5年度から下がってきており、明科と穂高地域が  
良くない。今年度は解析業務ということで、よりのを絞って配水池とそこ  
に接続しているどの系統で1番有収率が悪いのか調べ、より効率的にでき

ないかと始めている。来年度に現地調査に入る予定。明科・穂高地域で少しでも上げられていければ良いと考えている。

事務局： 電気料金は、令和6年度は国の補助金が9ヶ月ほどあった。今年度の状況は7月から9月まで補助金があり報道によると、1月分から3月分が経済総合対策で電気代の補助があると聞いている。物価高騰等状況から楽観はできない。令和8年9月と水道ビジョン見直しの中で、料金も検証をしていきたい。

委員： 漏水対策で布設替えや漏水箇所の処理をし、多少なりとも効果が出るのが普通だと思うが、令和5年6月と年間配水量上がっている。

工事をやっているにも関わらず、配水量が増えているということは、どこかで大量に漏水しており、追いつかない状況になっていると考える。普通の漏水でこのようになったのか、他に何か影響する理由があったのか教えていただきたい。

ビジョンでの目標の最終9年度の目標が85%としているが、それには到底近づけない。何か他に有収率を上げるために考えていること、目標年次までに目標値に近づけるような対策を考えていることがあれば教えて欲しい。

委員： この有収率は、配水と家庭で給水した量との差、そこに関わる状況変化というか。例えば機械を替えるとかメーターを替えるとかそういう要素というのは全然ないのかと、そういう他の要素みたいなものがあれば教えていただきたい。

事務局： 漏水以外の部分では、工事にあたり仮設管を地上に配管し断水をしないうようにしている。最近の夏場は非常に気温が高くお湯になってしまい、その仮設管の水をかけ流しにする。

また冬場の工事には仮設管が凍らないように、かけ流しにすることがある。工事量が増え仮設管が増えると、捨てなければならない水が増える。それを差し引いても有収率が年々下がる傾向。

次に老朽管、全国ニュースにもなっており破管している。地上に出てくる分にはすぐにわかるが、地下浸透している水は見つからない。

以前は、主となる配管工事の内容が老朽管の布設替えだったが、最近耐震化ということで、避難所や避難施設など重要施設への給水を国として力を入れており、安曇野市でも給水施設の耐震化工事が結構割合を占めている。漏水を発見して対処療法で直しても管路のまた違うところで徐々に漏水が始まる。

やはり根本的に有収率を上げるためには老朽管をしっかりと布設替えをしていかなければいけないが、なかなかその両方に力をかけられない。

もう1つはメーター、まず配水池の流量計の点検、昨年度と一昨年、全部はまだカバーしきれていないが、点検業務を行いメーターは間違いなかった。

事務局： 地区ごとに有収率を出している。穂高と明科が低い傾向が続いている。

ただ、12月くらいから徐々に穂高地域の宮城地域の高区系で漏水がひどくなり、現地調査にて漏水発見し、3月に修理をした。12月から2月末まで大体月4,500トンほど漏水していた。

地域ごと配水量を確認しながら、夜中の使わない時間帯にどれぐらい流れているか、増えていないかと、あまりにも増えてきていると職員の方

で、現地を見て回って漏水を調査するということを行っている。

委員： 建設改良費で7億ぐらいの決算で当初予算では大体14億ぐらいずつ毎年建設改良費に回していくという予定が半分ぐらいになった原因を教えてください。次に下水道の一般会計繰入金の見直しだが4億円程度減少しており、経営戦略の関係で今後ずっと減っていくのかどうか、使用料の値上げなどに影響していくか教えてください。

事務局： 繰越の大きかった要因としては、管路工事で国・県の工事が延びその事業費を繰り越したというもの。設備工事で年度内の終了予定だったが、機器類の納入が間に合わないということで、繰り越したものがある。これが主なもので近年にはない大きな額の繰越事業となった。

事務局： 下水道事業会計の一般会計の繰入金の減少に伴う影響だが、昨年度のこの審議会でも説明し経営戦略の見直しを行った。当面は均衡している形で繰入の減少分を、資本費平準化債を借り入れ借金の返済に充てる形で運営をしている。こちらも経営戦略の見直し等もあわせて見ていかなければいけない。

### (3) 令和6年度安曇野市水道ビジョン事業評価について (資料に沿って事務局から説明)

#### <質疑>

委員： 評価シートについては、実施できなかったという評価結果だが事業評価報告書では、引き続き行っていくような表現が出ているので、その辺の整合性について説明いただきたい。

事務局： 主に情報公開の充実、施設見学会の実施、利用者のニーズの把握ということで、それぞれ評価をさせていただいている。昨年度も指摘をいただいているが、なかなかできない部分があり、この点についてはC評価となっている。  
情報公開や情報発信、施設見学会、こういったものを引き続き行うということで、このような表記にさせていただいた。

委員： 唯一Cが1個だが、何がネックになってできないのか。

事務局： 令和6年度の対応、今後の対応について説明させていただく。  
今年度は、政策部局の市民アンケートへ掲載要望を出したが対象から外れた。  
今後水道事業として、部内で議論をする形にはなるが例えば、「安曇野市の水道は美味しいですか」と抽象的な質問をしてもあまり意味がない。  
料金についても、「料金どう思いますか」と言えば、安い方がいいという回答になるという中で、ありきたりな質問ではなく、どのような質問をすれば水道について、こういうものであって欲しいというものを議論していかなければならないので、今後水道課内で検討して対応していきたい。

委員： アンケート調査は目的ではなく手段であり、その結果を何に使おうかというところまで考えていないと、アンケートの中身や後のフォロー、使い方にも影響してくるので、配慮して内部でよく検討していただきたい。

(4) 令和6年度安曇野市下水道事業の経営戦略事業評価について  
(資料に沿って事務局から説明)

<質疑>

委員： 年間汚水量の推移が前回、前年度令和元年、2年が急激に増えているという傾向があった。

その分析結果については、在宅時間が長くなり汚水量が増えたのではないかとの回答だったと記憶している。コロナが明ければ、当然汚水量も同じように低下傾向になるのではないかと思われ、令和4年から5年にかけては、企業で排水が出るようになったと聞いているので、当然だとは思われるが、5年から6年に対してほぼ横ばいというのは、分析状況はどうなのか。

2点目、人材育成で、令和4年の実績が2名、令和5年が4名、令和6年は11名ということで、急激に増えているがどういう内訳か。

事務局： まず汚水量の変化。コロナもあったが、安曇野産業団地で3企業が新たに規模拡大した部分もある。企業等の地下水の汲み上げ量が増えた部分もあるが、企業の活動が活発化してきたことも増えてきた要因の1つ。

5年6年については、水道の使用量も地下水の汲み上げ量もそうだが、生産規模が安定した影響も想定される。明確なことはなかなか難しく、一概には言えないが要因的には影響が多少なりともあるレベルではあった。

実績については延べ人数で記載している。実際には4名。

委員： 下水道でC評価になった事業があるが、10年以降に採択を考えているという話で、年次目標のビジョンの中では令和9年度までに更新なり、工事をやることになれば、目標値というのは変更するなり、この項目は削除するなどしなければいけないと思うが。

事務局： 本格的な工事費用、予算的な部分で来年度からこの事業を変更して、設計や計画設計の予算をつけており、最終的には引き続き次期計画に引継いでいきたいと考えている。事業的には少しずつれ込む形になるが、この目標を取り止めにすることにはしたくないと考えている。

委員： 施策の点検評価結果の概要、国費の内示率というのは採択される率が低いと理解すればよいのか。

もう1点、農山村漁村地域交付金等、それから農村整備事業等の具体的な入ってくる金額的に、どちらが有利なのかどうなのか状況を教えていただきたい。

事務局： 全体にかかる費用に関しては、交付金だろうが農村整備事業であろうが同額である。内示率に関しては、県で全県の集計をとっており、交付金を使いたいという他市町村が相当多いと聞いている。

その中で安曇野市に割り当てられる額が減ってくるので、内示率的には4割と言われている。

ただ、内示率が高いと言われている農村整備事業に関しては、全県で要望がないとのことなので、9割らしい。通常、事業をやるときには5ヶ年計画を立てるが、内示率が高い方でいけば、5ヶ年計画が約1年伸びるか

と考えている。

4割でいけば、5年計画が実際には12～3年かかる。倍かかるということは、最初に整備したところが劣化してくるということでまた手を入れなければならないため、内示率の高い事業へ乗り換えることになっている。

委員： これをやったことによって、デメリットは。

事務局： 交付金で事業を進める限りは、事業期間が伸びてしまうことがデメリットになる。そのため短期集中で行う農村整備事業の方がメリットはあると考えている。

事業の計画として具体的に計画を作らなければならない。来年度、予算要求したがその計画に関しては全額国費でいただけるので、特段のデメリットに関しては感じてはいない。

## 5 その他

事務局： 第3次水道ビジョン策定について報告。

<質疑>

特に質疑なし